

各 位

2013年6月24日

本店所在地 東京都港区六本木一丁目6番1号
会 社 名 SBIホールディングス株式会社
(コード番号8473 東証第一部、大証第一部)
代 表 者 代表取締役社長 北 尾 吉 孝
問 い 合 せ 先 責任者役職名 取 締 役 常 務
森 田 俊 平
電 話 番 号 0 3 - 6 2 2 9 - 0 1 0 0 (代 表)

主要事業の業況に関する説明資料ならびに動画の公開について

昨年12月以降、当社グループを取り巻く事業環境等が大きく変わり、当社グループの事業運営に関し多くの投資家の皆様からお問い合わせを頂戴していることから、このたび、その代表的なものに関しご説明する資料ならびに動画を当社ホームページ上に公開することにいたしました。

今回公開する資料においては、本年5月までの当社の主要事業の業況に関する説明が含まれていることから、その内容につき下記の通りお知らせいたします。

記

2013年4・5月(2ヶ月累計)のIFRS基準に基づく主要事業の税引前利益(速報値)

金融サービス事業	70億円
アセットマネジメント事業	140億円 (※1)
(保有上場有価証券の公正価値損益)	
バイオ関連事業	▲6億円 (※2)

※1 5月末時点の上場有価証券の公正価値評価の変動に伴う収益約112億円を含む。

なお6月20日時点においては、売却が完了し現時点で実現している公正価値損益49億円とあわせて約92億円。

2014年3月期第1四半期は、これにリプロセルの上場に伴う公正価値評価益が加わる見込み。

※2 6月中に日系企業への開発シーズの譲渡があり、2014年3月期第1四半期は税引前利益で若干の黒字計上が期待される。

詳細は当社ホームページ(<http://www.sbigroup.co.jp/>)をご参照下さい。

以上

本プレスリリースに関するお問い合わせ先:

SBIホールディングス株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 03-6229-0126



*Strategic
Business
Innovator*

投資家の皆様から多く寄せられる ご質問について

2013年6月24日

SBIホールディングス株式会社
代表取締役社長 北尾 吉孝



本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

投資家の皆様から最近多く寄せられる ご質問

1. 韓国の現代スイス貯蓄銀行に関連して2014年3月期第1四半期に大きく損失が出る可能性はありますか？
2. リプロセルのIPOによる業績への影響は？
3. 今後期待されるバイオ関連投資先は？
4. 2013年4・5月の2ヶ月で見た業績の状況は？

1. 韓国の現代スイス貯蓄銀行に関連して2014年3月期第1四半期に大きく損失が出る可能性はありますか？

当社グループが筆頭株主である株式会社リプロセル **SBI Holdings**

(6月26日JASDAQ上場予定)

国内初のiPS細胞ベンチャー

<事業概要>

- ・ES/iPS細胞用研究試薬の販売
- ・ES/iPS細胞を用いた創薬スクリーニング及び毒性試験受託
- ・創薬用初代培養細胞の販売および毒性試験受託

2009年4月に京都大学山中教授から初めてライセンスを受け、世界初となるヒトiPS細胞由来の心筋細胞を上市。

2010年10月にはヒトiPS細胞由来の神経細胞の販売を開始。

新聞記事

✓ SBIグループ子会社及び運営するファンドからの出資状況(※1)

(内訳)	保有株式数	(参考)出資比率
当社連結業績へ直接影響する持分	1,137,460	12.9%
当社連結業績へ間接的に影響する持分	455,590	5.2%
合計	1,593,050	18.1%

※出所:株式会社リプロセル 有価証券報告書より

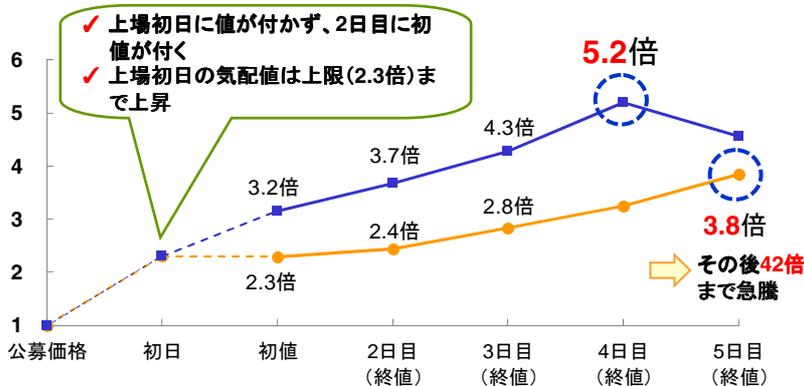
(2013年1月29日 日経産業新聞)

7

注目される最近の上場バイオ企業のケース **SBI Holdings**

最近に上場したバイオ関連企業は公開直後に公募価格の数倍に急騰し、以降も継続して個人投資家から高い人気を集める

公募価格からの株価上昇倍率



● ユージェナ(2012年12月20日株式公開) ● ペプチドリーム(2013年6月11日株式公開)

8

【参考資料】

直近のバイオ企業の上場時のケースを 参考としたリプロセルの価格形成



	公募価格に 対する倍率(倍)	株価	時価総額
公募価格	—	3,200円	266億円
上場初日に値段がつか なかった場合の気配値	2.35	7,520円	624億円
初値(2日目)	3.2※	10,240円	851億円
終値(2日目)	3.7※	11,840円	984億円

※ ペプチドリームの上場時のケースを当てはめた場合

9



3. 今後期待されるバイオ関連投資先は？

10



投資先の有望なバイオベンチャー企業

Acucela Inc.
 (SBIグループ出資比率: 16.9%・第2位大株主)※

公開目標: 2013年内
 主幹事証券: 三菱UFJモルガン・スタンレー証券

「対象患者が欧米で約2,700万人いるだけに、新薬として承認されれば、欧米の巨大製薬企業が主導権を握る創薬ビジネスに一石を投じることになりそうだ」
 (2013年2月23日 日本経済新聞 朝刊)

＜アキュセラ社のパイプライン＞

薬剤・プロジェクト名 (パートナー)	適応疾患	現状
ACU-4429 (大塚製薬)	ドライ型加齢黄斑変性症	臨床試験 (フェーズ II b/III) 最終試験
レバミピド (大塚製薬)	ドライアイ	臨床試験 (フェーズ III) 最終試験
OPA-6566 (大塚製薬)	緑内障	臨床試験 (フェーズ 1/2)

※SBIグループ出資比率はIFRS基準でグループ子会社に該当する子会社・ファンドからの出資比率合計 11

新聞記事



投資先の有望なバイオベンチャー企業- ii

(本書より)
全世界1億2,000万人の失明を救う夢の薬
 ～加齢黄斑変性に対する再生医療が実用化するのはいぶ先で、現時点では効果的な治療薬はほとんどない。実は、眼内注射による治療薬があるにはあるが、患者さんに大きな負担を強いるうえに、「ウェット型」と呼ばれる、出血を伴う末期の加齢黄斑変性にしか効果がないのが実情だ。
 それに対して、ぼくたちは患者の90%を占める「ドライ型」に効く飲み薬を開発している。**飲み薬で治療するというアプローチはこれまでになかったもの。**
 仮に、新薬開発に成功すれば、加齢黄斑変性の**市場規模は少なくとも5,000億円、場合によっては1兆円**に達すると見られている。～

著作物
 『極めるほどあきっぽい』
 の表紙

(アキュセラ窪田CEO著日経BP社)

4. 2013年4・5月の2ヶ月で見た業績の状況は？

2013年4・5月の各事業セグメントの業績の状況

	2013年4・5月累計 税引前利益 (速報値)
金融サービス事業	70億円
アセットマネジメント事業 (保有上場有価証券の公正価値損益)	140億円(※1)
バイオ関連事業	▲6億円(※2)

- ※1 5月末時点の上場有価証券の公正価値評価の変動に伴う収益約112億円を含む。
なお6月20日時点においては、売却が完了し現時点で実現している公正価値損益49億円とあわせて約92億円。
2014年3月期第1四半期は、これにリプロセルの上場に伴う公正価値評価益が加わる見込み
- ※2 6月中に日系企業への開発シーズの譲渡があり、2014年3月期第1四半期は税引前利益で若干の黒字計上が期待される

【参考資料】



<http://www.sbigroup.co.jp>